http://npo-atone.jimdo.com

NPO法人
あっとわん
ママのこころと笑顔の応援団

第153号
通信

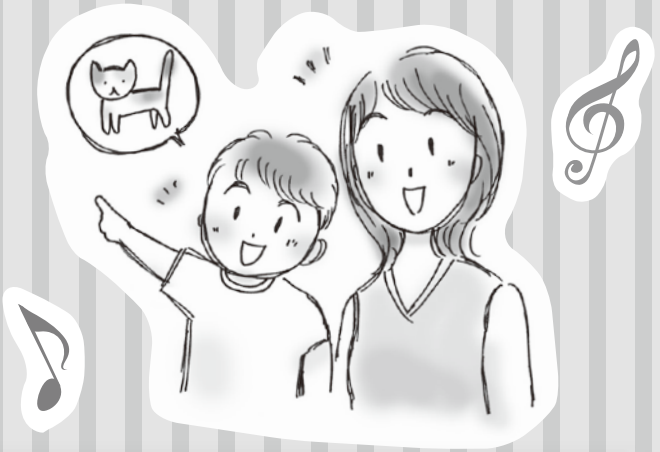
あっとわんは子育て支援の団体です。親と子のエンパワメントを応援しています。　2016年8月26日発行 46,370部

生活をていねいに…が、
ことばを育む

子育て支援の相談や、丁寧な関わりが必要な子どもの保護者の方からのご相談で多いのが、「ことば」のことです。

ことばがまだ出ない

という内容のご相談が比較的多いように感じます。
わたしたちは、医者ではありませんので、医学的な視点よりも子育てをしている生活者の目線から、少しお話をしたいと思います。

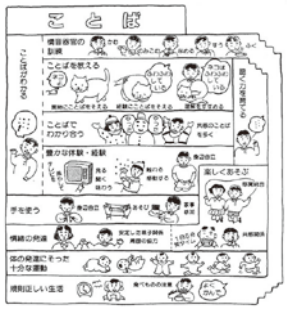


「ことばが出る・出ない」の心配が多い背景には、子どもの発達を親が認識するのに「ことば」というものがとてもわかりやすい目安だからではないかと思います。
しかし、ただ単に「ことば」出ているだけではなく、「意味のあることば」「ことばのやり取り」がお子さんの年齢と考えてみて、どれぐらいできるようになっていくのか?という点もとても大切です。

赤ちゃんからどんどん成長していく中で、だんだんと「意味のあることば」で、やり取りができていくようになります。
生後4か月ごろから出てくるという「喃語（なんご）」があり、だんだんと発語も増え、理解できることばも増えていきます。

最近は、赤ちゃんと触れ合う機会が少なくなっていて、どうやって赤ちゃんと接していいのかわからない・・・という保護者さんもいますし、「大人の会話ができなくて辛い…」というママもいます。
会話ができるようになるまでにはちょっと時間がかかりますが、これからことばが発達していく段階のひとつだと捉えてもらえるといいかなと思います。

じつは、このような「音声」を使って相手の注意をひいたり、命令をするなど、コミュニケーションに使っているのです。
うまれてわずか1年ぐらいで、大人とのやりとりと通して、対人社会性やコミュニケーションの発達と連動しながらさまざまな音声を作り出すことができるようになってきます。
なので、この時期も楽しんでもらえるといいかなと思います。



『ことばのビルの図』
出典：『ことばをはぐくむ』
中川信子著　ブドウ社

ことばやコミュニケーションの問題は、丁寧な関わりが必要なお子さんだけではなく、いろいろと話題に上るところです。ことばだけが勝手に発達していくわけではなく、さまざまな刺激や観察などを通じて、子どもたちはことばを獲得し、コミュニケーションを学んでいきます。

お口の中の筋肉の発達も関係していると言われていて、しっかり食べ物を噛む…ということも必要になってきます。

となると、「ことば」のことは、これらひとつひとつを生活の中に入れ込んでしまうことが、最終的にはとてもやりやすいことになっていくのだと思います。

たとえば・・・。

ことばのやり取り、ことばがけ、絵本を読む、うたを歌う、食事を意識する・・・。

何か勉強のようなものを教育的にやる・・・というより、生活の一部として丁寧にやっていく・・・。

生活に入れてしまうために必要な「気持ちの余裕」を親がどう持っていくのか？

お友達との時間、家族の時間、ひとりだけの隙間時間・・・で自分自身が落ち着ける時間をなるべく確保していくことで、子どもとの生活に少しでも向き合えることができるようになるといいですね。

「イヌだね」「ネコさんだね」というところから、もっと大きくなったお子さんでも、日常会話に学習的な要素を入れていくことが、とても大切になってくると思います。
特別に「何かやる!」となると、かまえてしまうこともありますが、日常的に取り入れることができるものは、取り入れていけるといいですね。

参考図書
『子どもの発音とことばのハンドブック』山崎祥子、めばえ社、2011年
『じょうずに食べる一食べさせる　摂食機能の発達と援助』山崎祥子、めばえ社、2005年

あっとわん春秋

わたしの講座で良く伝えている「ていねいな生活」ってどういうことなんだろう？時間に追われてしまい、なかなかゆとりがない中で、「ていねいな…」と言われてしまうと、困ってしまう人も多いかもしれません。「ていねい」＝「完璧」という意味ではないと思っています。ただ、「ていねい」というのは、時間が少しかかるものだと思います。▼なんでもスピード重視の時代になっています。ちょっとしたところでも、車でビュンと行った方が早いし、ご飯だってお風呂だって、効率よく早く済ませたいということが多くなってきています。ことばの表現だって「ウザい」「かわいい」という単語で済ませてしまっているのも、効率化ではないのかな？と思ったりします。効率よく何でもやりたいという気持ちは、誰にでもあるとおもいます。もちろん、わたしにもあります。でも、その効率の良さは大人にとってはとても便利なものなのですが、これからどんどん発達していく子どもたちにとっては、単に端折ってるだけに過ぎません。▼さまざまな学びは、非効率なものから得るものも大きく、「どうして？」「なぜ？」という疑問を端折らない…。そのために少し時間をかけて、丁寧に過ごしていくことが今の子どもたちにはとても大切なものになっているように感じています。

かわのゆみこ